

十和田市事務事業評価シート

担当課名	商工労政課
------	-------

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	126	整理番号	25
基本目標	にぎわいと活力あふれる「しごと感動・創造都市」		
施策の展開方向	商工業の振興		
事務事業名	中心市街地活性化事業		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	中心市街地の活性化に関する法律
関連する事務事業			

【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	100	100	100
	人件費(千円)	3,600	3,600	3,600
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	11,870	9,297	9,775
うち一般財源	7,523	5,398	5,725
うち国県支出金	4,347	3,899	4,050
うち地方債			
うちその他			

【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	中心市街地
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	進展する人口減少、少子高齢化社会に対応した、コンパクトでにぎわいのあるまちづくりを進めるために中心市街地の活性化を図る。
手段 (どのようなやり方で行うのか)	平成22年3月に認定された中心市街地活性化基本計画に掲載した、中心市街地の活性化に資する実施可能な32事業を計画期間内で展開する。

【指標】

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	実施事業数			
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
		事業	17	27	32
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	歩行者・自転車通行量			
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
		人/日	目標値	2,618	2,641
			実績値	2,649	2,050
			達成度(%)	78%	
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	居住人口			
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
		人	目標値	2,671	2,652
			実績値	2,697	2,648
			達成度(%)	99%	

十和田市事務事業評価シート

整理No	25
計画No	126

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4
	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		今後の人口減少、少子高齢化社会に対応した、コンパクトでにぎわいのあるまちづくりを進めるうえで中心市街地の活性化は必須であり、事業の妥当性は十分にあると考えられる。
有効性	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6
	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1		中心市街地活性化事業は、平成22年3月から平成27年3月までの5年間の事業であり、その期間内において官・民で事業を実施することとなっている。現在においては、まだ期間の途中であり、成果指標からみた事業効果を期待できる商業施設等については、今後の実施完成となる。なお、現在において中心市街地活性化事業は、基本計画に基づき順調に実施されている。
	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
効率性	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2	5	コスト削減の余地 1 / 6
	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	B	1		基本計画の事業のうち、中心市街地活性化を図るために実施しているソフト事業については、イベント等に事業補助をしているが、今後においては、補助なしでイベント等を実施できるよう、事業者と検討する余地がある。
	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		
公平性	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4
	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		中心市街地活性化事業は、活性化協議会からの意見や市民会議からの意見等を取り入れ策定され、国に認定された基本計画に基づいて適正に実施している。
			現在の適性	18 / 20	改善の余地 2 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

有効性を改善して継続

方向性の理由

進展する人口減少、少子高齢化社会に対応した、コンパクトでにぎわいのあるまちづくりを進めるうえで、中心市街地の活性化を図る。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

中心市街地活性化事業について、事業者との調整、国、県の関係機関との調整を行い、中心市街地活性化基本計画の期間内に事業を実施し、中心市街地の活性化を図り、コンパクトでにぎわいのあるまちづくりを進める。